



2025年10月30日
NITE (ナ イ ト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北 陸 支 所

News Release

ストーブとの程よい距離感が大切です ～「電気」「石油」暖房器具の事故を防ぐ4+1 のポイント～ (北陸3県版)

1. 事故の発生状況

2020年から2024年までの5年間にNITEに通知された製品事故情報^{※1}のうち、北陸3県（富山県、石川県及び福井県）で発生した主な暖房器具^{※2}の事故は21件あり、そのうち、電気暖房器具（電気ストーブ・電気ファンヒーター）と石油暖房器具（石油ストーブ・石油ファンヒーター）の事故が約85%を占めていました。

(※1)：消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

(※2)：石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット、電気こたつ

表1 県別年別事故発生件数（2020～2024年）

事故発生年		富山県	石川県	福井県	合計
2020年		1	3	0	4
2021年		1	2	0	3
2022年		1	5	0	6
2023年		2	4	0	6
2024年		0	0	2	2
合 計	事故件数	5	14	2	21
	うち火災件数	[5]	[12]	[2]	[19]

表 2 県別被害状況別事故発生件数 (2020～2024 年)

被害状況※3		富山県	石川県	福井県	合計
人的被害	死亡	1	2	2	5
	重傷	0	0	0	0
	軽傷	2	0	0	2
物的被害	拡大被害※4	2	9	0	11
	製品破損	0	3	0	3
被害なし・不明		0	0	0	0
合 計		5	14	2	21

(※3) : 物的被害があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分しています。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていません。

(※4) : 当該製品のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

2. 製品事故事例

(1) 石油ストーブ（カートリッジタンクの蓋が開き、こぼれた灯油から出火）

事故発生年月 2020 年 12 月（富山県、男性、80 歳代、拡大被害）

【事故の内容】

当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品は、使用者が消火せずに給油作業を行った際にカートリッジタンクの蓋が開き、こぼれた灯油が当該製品に掛かって出火したものと考えられる。

(2) 電気ストーブ（電源コードの断線）

事故発生年月 2022 年 12 月（石川県、女性、50 歳代、製品破損）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電源プラグ付近から火が出た。

【事故の原因】

電源プラグのコードプロテクター根元付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が断線し、スパークが生じて焼損したものと推定される。

（本件に関する問い合わせ先）

〒920-0024 石川県金沢市西念 3-4-1

独立行政法人製品評価技術基盤機構

北陸支所 担当者 塚谷、篠崎

電話：076-231-0435

以上